

令和 8 年度ティーチング・ポートフォリオ

山村学園短期大学子ども学科

准教授 福泉 博子

1. 教育の責任

私は子ども学科の教員として保育士資格、幼稚園教諭 2 種免許状取得における音楽・ピアノにおける分野の教科を担当している。

2024～2025 年度の担当科目は（表 1）の通りである。

科目名	開講年度	学期	対象学年	種別	受講者数	備考
音楽Ⅰ	2024	前期	1 年生	演習	30 名	2 クラス ※教員 2 名
					28 名	
	2025	前期	1 年生	演習	23 名	
					23 名	
音楽Ⅱ	2025	後期	1 年生	演習	23 名	2 クラス 教員 5 名
					22 名	
ピアノⅠ	2024	前期	2 年生	演習	22 名	2 クラス ※教員 5 名
					24 名	
	2025	前期	2 年生	演習	28 名	
					28 名	
ピアノⅡ	2024	後期	2 年生	演習	13 名	2 クラス ※教員 4 名
					13 名	
	2025	後期	2 年生	演習	18 名	
					19 名	
保育内容表現	2024	後期	1 年生	演習	57 名	1 クラス
	2025	後期	1 年生	演習	45 名	※教員 3 名
保育内容表現の指導法	2024	前期	2 年生	演習	45 名	1 クラス
	2025	前期	2 年生	演習	57 名	※教員 3 名
子ども文化演習 B	2024	後期	2 年生	演習	41 名	※教員 3 名
	2025	後期	2 年生	演習	57 名	
子ども学ゼミナールⅠ (子どもの音楽)	2024	前期	2 年生	演習	47 名	音楽ゼミ 11 名
	2025	後期	2 年生	演習	57 名	音楽ゼミ 10 名

キャリアアップセミナーⅢ	2024	前期	2 年生	演習	47 名	※教員 4 名
	2025	前期	2 年生	演習	57 名	
キャリアアップセミナーⅣ	2024	後期	2 年生	演習	47 名	教員 4 名
	2025	後期	2 年生	演習	57 名	
保育入門	2024	通年	山村国際高校 3 年生	演習	13 名	※教員 5 名 後期担当
	2025	通年				

(表 1) 2024～2025 年度 担当科目詳細一覧

委員会名	年度	備考
経営企画委員会	2019 ～	学内運営業務 方針の検討と実施 規程等の管理と運営 自己点検・評価
学生支援委員会 (委員長として)	2015 ～	学生の学園生活の指導や支援。心のケア。 遠隔地通学生、職業訓練生の対応と支援。 学生会（総務委員会・山緑祭実行委員会）の対応 学生総会・学園祭等の学生主体行事の取りまとめ サークル活動の対応。 学園祭の運営 各種奨学金に関する対応。 避難訓練、交通安全運動の実施。 プレコンセプションケア／包括的性教育講座の開催 消費者トラブルについての講座
図書・紀要委員会 2024 年度まで 委員長	2016 ～	図書等の購入。 紀要の編集と発行。図書館便りの発行。 埼玉県 図書館と県民のつどいへの参加。 図書館アンケートの実施。学園祭への参加。 くつろげる空間づくり等を行う。 図書委員会（学生）の指導
キャリア支援センター	2016 2025	学生一人ひとりの将来に活かせる実際的な支援の実施 学生のキャリアアップや社会的自立（自律）と コミュニケーション能力の向上を目指す指導を実施。 キャリアアップセミナー授業内の初年次教育及び進路ガイダンス、進路体験報告 会・「進路講演会」・「学内就職説明会」等の企画・運営の補佐

		企画講座（資格取得を伴う）の実施（ 社会福祉事業団の説明会や彩の国人づくり財団による公務員保育士職の案内会、埼玉労働局の講演会の開催、キャリアサコンサルタントによる面談と講演の企画・調整・実施、卒業生の相談及び再就職支援
--	--	---

（表 2） 委員会詳細一覧

2. 教育の理念

私が音楽教育に携わってきた中で、保育者を目指す学生たちに対して心がけていることは、音楽の基本や原点を丁寧に指導するとともに、感じる心や想像力を養うことである。そして、子どもたちと一緒に音楽活動を楽しみ、伝えることができる人材を育成することである。

保育者を目指す学生の中には、ピアノ未経験者や初心者が非常に多く、基本的な知識も皆無である。音楽の知識やピアノ奏法などの技術を学ぶことは大変困難ではあるが、2年間という短い時間の中で保育者として自信をもって音楽活動に取り組めるよう、次にあげる7つの項目を学生に習得してほしい。そして、広い視野と柔軟な心や発想力で子どもたちの心を育むとともに、保護者や地域の方と関わってほしいと考えている。

- ①楽譜を読む力（読譜力）
- ②演奏する力（ピアノなどの鍵盤楽器・子ども達が扱う楽器）
- ③歌唱力（正しい発声ができる。適度な声量で子供と一緒に楽しみながら歌える。）
- ④感じる力（自然や生活の中で五感を使って感じる）
- ⑤想像力（物事をよく考え頭の中に思い描く）
- ⑥創造力（新しいものを作り出したり工夫する）
- ⑦表現する力（声や体、楽器などの様々な手法を使った音楽表現、総合表現。人前での発表）

3. 教育の方法

担当している教科は演習科目であり、1名で担当する科目もあれば、複数で担当する科目もある。ここでは、専門分野の「音楽Ⅰ・Ⅱ」「ピアノⅠ・Ⅱ」についての教育の方法を示す。

（1）音楽Ⅰ・Ⅱ 1年生

【授業の概要】

保育士資格必修の本科目は保育者として必要となる音楽の基礎的な知識、技能の理解と習得を目指す。そのため、楽典や歌唱法、ソルフェージュに関する授業を前期に、ピアノや弾き歌い、声楽などの個人レッスンを後期の授業で実施し、音楽全般について総合的に学習する。

また、本学の自然環境を生かした環境での音遊びを行い、五感と想像力を養う。

【ねらい】

- 1) 幼稚園や保育所などで歌う「こども・幼児のうた」の特性を学び、ピアノで弾き歌いをしながら子どもの指導ができる力を身につける。
- 2) 自然や生活の中にある音を感じ、声や身体、楽器、身近にあるものを使って音楽を奏でる方法を習得する。また、それらの方法を用いて、子どもの発達に合わせた活動が出来るようにする。

【内容と到達目標】

音楽Ⅰ

- ①こどものうたの特性を学び、ピアノで弾き歌いをしながらこどもと関わる。
- ②本学オリジナルの楽典教則本を活用し、保育現場で必要とされる音楽知識を身につけ、読譜力を養う。
- ③合唱や合奏を通して演奏する楽しみ、他者と合わせる楽しみを体験の中から感じとる。
前期は2名の教員で授業を行う。
①②では音楽（ピアノ）未経験・初級者クラスと経験者クラスの2グループに分けて、グループレッスンや個別指導で学生一人一人が理解できるよう心掛けた。また、③ではグループワークを取り入れ、音を使った活動の習得と人との関わりを学べるようにした。

音楽Ⅱ

- ①初級者は、ピアノ・弾き歌い進度表（山村短大オリジナル）の応用Ⅱまでの習得。
- ②中級者は、ソナチネアルバムⅠやブルグミュラーの習得。
- ③上級者は、ソナタアルバムや同レベルのピアノ曲の習得。
- ④生活のうた、季節のうたなどを通して、子どもの心に伝わる歌い方ができる。
- ⑤子どもの歌、手遊び、読み聞かせ等保育者は発声をする機会が非常に多い。

声楽レッスンを取り入れ、豊かな声で歌唱、発声ができるようにする。

音楽Ⅱでは、ピアノレッスン（4名）、声楽レッスン（1名）計5名の教員が毎週個人レッスンを行う。学生一人に対してのピアノレッスン時間は18～20分。その他の時間は個人練習時間とし、課題練習の時間にあてた。ひとりひとりの習熟度や性格を理解し、個々にあった指導を心掛けている。また、声楽レッスンは3週に1度15分程度の個人レッスンを実施し、発声の基礎や歌唱表現力向上をねらう。

（2）ピアノⅠ・Ⅱ

【授業の概要】

保育現場で必要とされる鍵盤楽器（ピアノ）の奏法を学ぶ。ピアノ未経験者から上級者まで、個々のレベルに合わせたレッスンを行う。初級者はバイエルなどの教則本を使い初歩的技術の習得を、中・上級者はソナチネなど様々な楽曲を用いて総合的な音楽力を身につけ、園生活で

使われる基本的な生活の歌を習得する。

【ねらい】

読譜力を身につけ、正しい運指法、打鍵法で演奏できるようにする。幼稚園・保育所等で歌う生活の歌を弾き歌いできるレベルを目指すとともに、歌唱活動の進行や指導ができるようにする。

【内容と到達目標】

授業は演習形式で行い、7名の教員でピアノレッスン（個人レッスン）を毎週実施する。レッスン時間は一人に対して15～18分程度。学生にはピアノ進度表【山村短大オリジナル】を配布し、視覚からも成長がわかるようにした。ピアノ、弾き歌いとも個々の進度に応じ、難易度別に設定される曲目をクリアしながら各自がレベルアップを図る。また、園での歌唱活動を想定したワークショップを行い、歌に合わせる演奏や人前で弾くことへの苦手意識を軽減する。

- ①音名、音符、リズム、拍子を理解し、ひとりで読譜し演奏することができる
- ②初級者は「ピアノ・弾き歌い進度表」の基礎Ⅰまでを、中級者は基礎Ⅲまでを、上級者はソナチネ・ソナタ・ブルグミュラーなどが演奏できる
- ③園で歌われる生活の歌や季節の歌、童謡などの弾き歌いができる
- ④歌唱活動における進行や指導ができる
- ⑤歌唱に合わせた演奏をすることができる

4. 教育の成果、評価

2025年度の前期・後期定期試験前に学生に対して授業アンケートを実施した。各設問の内容は次の通りである。（表3-1, 2, 3）

問1 学生自身の、この授業への取り組みについて
1, 欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか。
2, 私語を慎んで授業を受けましたか。
3, 授業の要点を配付プリント等にとっていましたか。
4, シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。
5, 予習・復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。
問2 授業内容について
1, 授業内容は、シラバスに示されていた学習目標と合致していましたか。
2, 授業内容のレベルは適切でしたか。
3, 授業の進度（速さ）は適切でしたか。
4, この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。

問 3 授業の進め方について
1, 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。
2, 授業の説明の仕方は分かりやすいものでしたか。
3, 授業中の板書やプロジェクター(パワーポイント等)の利用は適切でしたか。
4, 教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。
5, 教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。
6, 学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。
問 4 全体的評価
全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。

(表 3-1)

2025 年度の前期授業アンケートの結果一覧 (5 点満点)

	音楽 I	ピアノ I	保育内容表現の 指導法
問 1	1 4.62	1 4.63	1 4.45
	2 4.79	2 4.69	2 4.40
	3 4.69	3 4.62	3 4.40
	4 4.55	4 4.67	4 4.47
	5 4.57	5 4.71	5 4.36
問 2	1 4.67	1 4.67	1 4.49
	2 4.50	2 4.67	2 4.47
	3 4.55	3 4.75	3 4.45
	4 4.62	4 4.73	4 4.49
問 3	1 4.76	1 4.75	1 4.47
	2 4.57	2 4.75	2 4.49
	3 4.45	3 4.63	3 4.47
	4 4.60	4 4.71	4 4.51
	5 4.79	5 4.77	5 4.49
	6 4.79	6 4.77	6 4.49
問 4	4.64	4.73	4.40

(表 3-2)

2025 年度の後期授業アンケートの結果一覧（5 点満点）

	音楽Ⅱ	ピアノⅡ	子ども文化 演習 B	保育内容表現	子ども学ゼミ ナール(音楽)
問 1	1 4.73	1 4.53	1 4.43	1 4.50	1 4.29
	2 4.85	2 4.67	2 4.30	2 4.62	2 4.14
	3 4.63	3 4.75	3 4.40	3 4.57	3 4.43
	4 4.61	4 4.72	4 4.34	4 4.62	4 4.43
	5 4.59	5 4.67	5 4.32	5 4.48	5 3.88
問 2	1 4.68	1 4.75	1 4.38	1 4.57	1 4.43
	2 4.71	2 4.78	2 4.32	2 4.67	2 4.29
	3 4.63	3 4.78	3 4.13	3 4.48	3 4.00
	4 4.66	4 4.81	4 4.32	4 4.64	4 4.43
問 3	1 4.76	1 4.81	1 4.23	1 4.71	1 4.43
	2 4.76	2 4.81	2 4.23	2 4.57	2 4.43
	3 4.27	3 4.67	3 4.21	3 4.60	3 4.14
	4 4.44	4 4.72	4 4.23	4 4.55	4 4.43
	5 4.80	5 4.81	5 4.30	5 4.62	5 4.43
	6 4.73	6 4.83	6 4.26	6 4.64	6 4.43
問 4	4.56	4.72	4.19	4.45	4.14

(表 3-3)

(1) 音楽Ⅰ

2025 年から SBD（セルフブランディングデイ）が始まり、問 1 の学生自身の授業の取り組みについては、問 1-1 の出欠では、昨年度より 0.22 ポイント、問 1-5 の予習復習では 0.37 高くなっていて、時間を有効に使い自主学習していた学生が増えた結果と思われる。

問 2【授業の内容について】 問 3【授業の進め方】については、4.50 以上の評価を、また、問 4 の【全体評価】でも 4.64 の評価を得ており、学生がこの授業を通して、音楽についての能力が深まったと感じてくれたようだ。

自由記述では、「楽典は初めてで難しかったが理解できるようになった」「音符がわからず感覚で弾いていたが、楽譜を読んで理解することができた」「楽しかった」など、授業に対して好意的な意見や前向きな意見が多かった。

近年は音楽知識やピアノ未経験者の割合が増加傾向にあり、学生に合わせた教則本の作成や楽曲の編曲を行っている。

今後も初級者、未経験者には、ゆっくりと丁寧な指導を。経験者には更なる音楽知識や技術の習得を。ひとり一人に合わせた指導を心掛けた授業を展開していきたい。

（２）音楽Ⅱ

問 3-3 の標準偏差は 1.20 と数値が高く、評価に開きがある。精査すると 1 の評価を 3 名が付けており、3 の評価も散見される。これは板書やプロジェクターを使わぬ授業形態であるため、評価づけに混乱が生じたようだ。音楽系や表現系の授業のアンケートにはややそぐわない項目である。一年生の後期、初めての対面個人レッスンの形での授業である。ほとんどの学生はバイエルピアノ教本を購入（用意）してもらい、取り組んでいく。その進め方は個々の知識・能力によって様々とはいえ、基本的に進度表というレッスンを進めるにあたっての手引き、あるいは目標が設定されており、教員側でそれ以上工夫したくても時間的制約もあり、あまりその余地がないということが言える。また、試験時に弾き歌いもしてもらおうが、一年生の後期、まずは童謡・唱歌を含めスタンダードな子どもの歌に触れてほしいという方針もあり、こちらも例えばアニメ、ディズニーやジブリ作品の歌などに取り組ませる余裕はなかった。

学生一人一人の能力や個性はそれぞれ全く違うものであるから、対面の個人レッスン形式を取っている以上それぞれに合った教え方や導き方をしたいところだが、教員側の実感としても、自由記述を見てもある程度それはできていたように思う。／学生側からの要望として、授業の時間配分を平等に、というのと、試験時に時間がオーバーしてしまったことへの苦言があった。前者に関して、うんと苦手な学生や逆に高度な技術をもつ学生には時間がかかりがちである。ただ、それで順調にバイエルを進めている学生の時間を削ってしまう訳には行かず、教員側も精一杯平等を心がけねばならない。引き続きその点に留意して取り組みたい。／後者に関して、例年バイエル（ピアノ曲）も弾き歌い曲も一年生の後期の時点では選ばれる曲は短く、同時にその 2 曲を披露してもらっても時間のことをほとんど気にする必要がなかった。ところが今回は、思いのほか入学前の経験者を中心に意欲的な曲目で取り組む学生が多く、聞き応えもあり途中で切ることはせずに弾いてもらったところ、オーバーしてしまった。しっかり最後まで弾き切ってもらったし、学生達も聞く姿勢は良く評価をつけるにあたっての支障は無かったとはいえ、選曲してもらった前の時期に時間の制限があることを教員間で共有し、また学生にも周知するなど、改善していきたい。

（３）ピアノⅠ

ピアノⅠでは 1 年次の音楽Ⅰ・Ⅱにおける成果を踏まえ、より実践的なピアノ、弾き歌い技術を習得していくことを目標とし、毎週、担当教員による個人レッスンをおこなった。また実習に向けての準備や弾き歌いのロールプレイなどを通して、保育現場での状況を想定しやすくし、学生の技術向上への意欲を高めるよう努めた。全体を通して平均点が全て 4 点台の後半になっており、履修した学生が意欲的に取り組める授業を提供できたのではないと思われる。また、問 2-4「知識の深まり、能力の高まり」に関しても、4.73 と高く、講師側の目指すところも達成できたように感じる。「保育現場で必要な技術、能力」であることを学生に意識してもらうことに努めた結果、限られたレッスン時間にもかかわらず、学生自身も有効に時間を使い技術向上の為に意欲的に取り組めたのではないかと考える。自由記述には「わかりやすかつ

た」「的確なアドバイスをいただいた」などとあり、個別レッスンのメリットを十分に感じてもらえているのではと思う。また「レベルアップできた」「レパートリーが増えた」「苦手だけががんばった」など、嬉しい記述も多かった。さらに「ピアノテスト本番でミスをしてしまいとても悔しい」という記述があり、これは真剣に取り組んでこなければでない感情で、学生の努力の様子を感じられて大変嬉しく思う。試験であれ、実習であれ、ここぞという時に頑張れる力をつけること、準備する大切さ、失敗してもそれが力になることを伝えられるように、今後も学生一人一人と向き合いながら指導していきたい。

（４）ピアノⅡ

全問において、平均 4.5 以上と高い評価がつけられている。ピアノⅡは履修人数が少なくレッスン時間にゆとりがあり、学生それぞれの習熟度に合わせた指導を行うことができたように感じる。全体で 4.53 と最も低い評価がついている問 1 の 1 は、欠席や遅刻の有無についてであるが、特別そのような学生が多かったようには感じられず、学生自身が一回の授業の重要性を理解して取り組んでいたことが窺える。問 2 と問 3 では全て 4.7 以上の評価がついており、授業での話し方や説明の仕方など、大勢の授業とは違い一人一人時間をかけて対応しており、それが学生にも実感してもらえているといえよう。全項目で概ね高評価がつけられ、自由記述にも「楽しかったです。」や「丁寧な指導でした。」など肯定的なコメントが多く見られた。毎回、レッスン時間の不平等性を指摘するコメントが見られるが、今回はその点で不満を抱く学生が居なかったようである。その中で 1 名の学生のコメントに「二年生最後の試験で、教員の意向で自分の弾きたい曲を諦め悔しい思いをした。」というものがあり、使用テキストの進め方や試験曲の選曲について、講師によって差が生まれてしまわないように今一度講師陣で話し合う必要があるように感じた。

（５）保育内容表現の指導法

全ての項目で 4 点代半ばの評価であり、授業の進行や内容、速度など概ね適切であったと思われる。問 1「あなたの自身のこの授業への取り組みについて」では出欠については一部の学生で欠席数が目立つ学生はいたが 4.45 の評価を得ており問題はない。表現分野の様々な学びを行い、多角的な視点から授業展開を行ったため、学生たちも楽しみながら学んでいる様子がうかがえた。自由記述では各分野の授業内容が楽しかったなどの意見が多く、表現の楽しさを感じてくれた学生が多かった様だ。

発言や表現、協働が苦手な学生も多いとは思いますが、考えや思いを言葉で伝える大切さや意見を交えながら物事を進めていくことを学んでほしい。

（６）保育内容表現

すべての項目で 4 点代半ばの評価を得ており、学生の授業に対しての満足度は高く、子どもの成長において表現の重要性を理解し、この授業が有意義であったと感じた学生が多かった。

たと考えられる。後半回で行ったグループごとの総合表現では、時間が少なく準備不足なグループが多かった。これは学生からの自由記述にも書かれており、改善点として今後に生かしたい。しかしながら、発表については意欲的な作品が多く、前半回で学んだ各分野の表現を取り入れた面白い作品が多かった。学生が音楽、身体、造形の各分野での表現や、それらを融合させた活動を体験することで、表現の楽しさを理解し、他者と協働しながら進めていく大切さも知ることができたと感じた。

(7) 子ども文化演習 B

問 1 の学生自身の授業の取り組みについては、評価通り、欠席者も少なくグループ活動にも積極的に取り組む学生が多かったように思う。

問 2 の「授業内容について」は、項目 3（授業の進度）では、4. 1 3 と若干他項目より低くなっている。これは、「自らが主体的にかかわる」「他者と協働して物事を進める」等、今まで経験したことがない学生にとっては、準備時間が少なく感じたり、戸惑いや不安を感じたことが関係していると考察される。

問 3 の「授業の進め方」では、4. 21～4. 30 の評価を得ており、多くの学生が授業の進め方、質問などにおいては的確な対応をしてくれたと評価した。

自由記述では、「達成感を感じた」「全員で協力しながら取り組みチームワークができて楽しかった」「学生の希望に応じた個別対応があり、主体的な学びを実践できた」「自己主張や他者理解の力を養えた」「柔軟なアイデアがとてもよかった。これからの仕事に活かそう」「ヨーフラの取り組みは保育者としての自信や自覚につながる良い活動である」等の記述があり、この授業の意図を理解し意欲的に取り組む学生や、学びに繋がった学生がいたことが伺える。今後の課題として、各グループに於いて学生個々の役割を明確にし、特定の学生に負担が集中しない方法を提案や学生が主体的に取り組むための動機づけが必要である。タイムマネジメントにおいては、学生が見通しを持てるような配慮や十分な準備期間の保持あげられる。これらの課題の改善と共に学生が達成感を感じられる授業になるように努めたい。

(8) 子ども学ゼミナール（音楽）

問 2—3 の授業進度についてが、他設問と比べると若干低い。これは、授業日程が大きく関わっていると思われる。音楽は日々の積み重ねや努力が必要な科目であり、毎週練習を実施できることが理想である。期間が空いてしまうと演奏力が振出しに戻ってしまうことが多い。他イベントの準備で練習時間の確保が難しくなってしまったため、授業の進度としては速すぎる、短すぎるという意見が出て評価が低く出たと思われる。自由記述では、「合唱合奏を仲間とできてよかった。この経験は大きいです」との意見があった。学生には練習を積み重ねるといった個々の努力と忍耐力。互いを尊重し補い合いながら協力をして音楽を作り上げる楽しさ。そしてその成果を表現する喜びを知ってほしいと思って授業を実施した。今回のゼミ活動は、前述で述べたようにゼミ内容以外での準備で練習時間が思うように取れず、達成感は少し低かったよう

に思う。そして、相互学習、協働学習という音楽（表現）を作るために必要な学びについても少し課題が残ってしまった。次年度はこれらの課題を改善できるような日程調整、授業展開を心掛けたい。

5. 教育の改善に向けた今後の目標

（１）音楽Ⅰ／音楽Ⅱ

短期的目標	・ 楽典の理解と読譜力の向上。 ・ こどものうたの特性を学びながら歌唱力の向上を図る。 ・ 音を五感で感じ、様々な手法で表現できる学生を育成する。 ・ グループワークを取り入れ、音を使った活動の習得と、人との関わり方を学べる授業展開を行う。 ・ ピアノや楽典では、ひとりひとりの習熟度や性格を理解し、個別指導を取り入れ、より丁寧な指導を行う。
長期的目標	・ 設備面の充実を図る。 ・ 学園内の自然環境を生かした、音を感じる空間づくり ・ 音楽活動を子どもたちとともに楽しみ、子どもたちの感性や感情を育むことができる人材を育成する。 ・ 音楽活動を通して地域の社会との関りを持ち、子育て、保育、幼児教育において役立つ人材を育成する。

（２）ピアノⅠ／ピアノⅡ

短期的目標	・ 楽典の理解と読譜力の向上。 ・ 拍子やリズム感を養う。 ・ ピアノ演奏、弾き歌い技術の向上。 ・ コードや和音を使って学生自身が歌の伴奏をできるような指導を行う。 ・ レッスン時間の確保。ひとり 18 分～20 分 ・ リトミックで活用できる楽曲や演奏法を取り入れた指導。 ・ 歌唱活動での指導や進め方を習得する。弾き歌いワークショップの実施
長期的目標	・ 設備面の充実を図る。 ・ 音楽活動を子どもたちとともに楽しみ、子どもたちの感性や感情を育むことができる人材を育成する。 ・ 音楽活動を通して地域の社会との関りを持ち、子育て、保育、幼児教育において役立つ人材を育成する。

(3) 保育内容表現／保育内容表現の指導法（音楽）

短期的目標	・音楽を楽しむことができる保育者を育成する。 ・音を五感で感じ、様々な手法で表現できる保育者を育成する。 ・こどもが使う楽器の奏法を知り、演奏ができる。 ・こども達に合奏の指導ができる。 ・正しい発声方法を知り、程よい声量で歌うことができる。 ・こどもにふさわしい歌い方を指導ができる。 ・てあそび・リズム遊び等ピアノが苦手な学生でも取り組める音楽遊びを習得する。
長期的目標	・音楽活動を子どもたちとともに楽しみ、子どもたちの感性や感情を育むことができる人材を育成する。 ・音を使った遊びや活動が考えられる保育者を育成する。 ・音楽活動を通して地域の社会との関りを持ち、子育て、保育、幼児教育において役立つ人材を育成する。

6. その他

毎年2月には入学予定者（初心者・未経験者）に対して、ピアノ初級講座を6日間（120分×6日）実施している。1回目では入学予定者全員に音楽・ピアノについての調査と面談を実施し、受講が必要と感じられた学生に2回目からレッスンを実施。入学までにピアノに触れる機会を設けることで、ピアノに対しての不安を取り除き、入学後も意欲をもって取り組めるようにすることが目的である。

音楽Ⅰ・Ⅱ／ピアノⅠ・Ⅱでは、習熟度の低い学生に対し補習レッスンを行っている。

7. エビデンス一覧

- (1) 各科目シラバス（音楽Ⅰ・Ⅱ　ピアノⅠ・Ⅱ　保育内容表現の指導法
保育内容表現　子供文化演習B）
- (2) 授業時配布プリント（一部）（音楽Ⅰ　保育内容表現　保育内容表現の指導法）
- (3) 授業用 PowerPoint（保育内容表現　保育内容表現の指導法）
- (4) 試験問題（音楽Ⅰ：筆記）（音楽Ⅱ／ピアノⅠ・Ⅱ実技）
（保育内容表現　保育内容表現の指導法　子供文化演習B：レポート）
- (5) 成績集計結果（音楽Ⅰ・Ⅱ　ピアノⅠ・Ⅱ）
- (6) 授業アンケート結果の考察（音楽Ⅰ　ピアノⅠ　保育内容表現　保育内容表現の指導法　子供文化演習B）